

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年10月31日

上場会社名 ユニ・チャーム株式会社  
 コード番号 8113 URL <http://www.unicharm.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

(氏名) 高原 豪久  
 (氏名) 岩田 淳  
 配当支払開始予定日

TEL 03-3451-5111

平成20年12月8日

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	170,031	—	15,263	—	15,056	—	8,027	—
20年3月期第2四半期	160,322	11.8	14,700	9.5	14,526	9.1	7,054	7.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	125.65	125.31
20年3月期第2四半期	109.50	109.40

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	282,909	188,146	188,146	60.4	60.4	2,657.67
20年3月期	275,435	179,170	179,170	58.9	58.9	2,545.79

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 170,957百万円 20年3月期 162,251百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					年間
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
20年3月期	—	23.00	—	—	23.00	46.00
21年3月期	—	27.00	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	—	27.00	54.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	352,000	4.5	36,000	6.7	34,400	6.4	17,500	4.9	272.05

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有  
株式数の変動により1株当たり当期純利益のみを変更しております。

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 — 社(社名 ) 除外 — 社(社名 )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 有  
 (注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 68,981,591株 20年3月期 68,981,591株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 4,655,663株 20年3月期 5,248,303株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 63,886,413株 20年3月期第2四半期 64,424,700株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 本資料の予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご参照ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）の日本経済は石油関連製品や食料品などの物価上昇により、消費動向に翳りが見えてまいりました。一方、アジア経済は、世界的に経済環境が悪化する中においても、中国を中心として堅調に拡大傾向にあります。このような環境下、4月からスタートいたしました第7次中期経営計画「グローバル10計画」の実現に向け、国内主力事業の強化と海外事業の拡大を推進しております。

国内のパーソナルケア事業では、高付加価値製品の投入と継続的なコストダウンにより収益性の改善に取り組んでまいりました。また、ペットケア事業では、国内のペット飼育の4大潮流「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」を踏まえた製品ライン拡充と販売促進を図ってまいりました。

海外事業では、各参入地域においてパーソナルケア事業の強化に取り組み、売上ならびに利益の成長を加速することができました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は170,031百万円（前年同期比6.1%増）、営業利益は15,263百万円（前年同期比3.8%増）、経常利益は15,056百万円（前年同期比3.6%増）、四半期純利益は8,027百万円（前年同期比13.8%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①パーソナルケア

当期のパーソナルケア事業部門の売上高は143,093百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は12,268百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

##### 【ベビーケア事業】

国内では、環境負荷を低減した『ムーニーマン スリムパンツ』を発売し、市場の活性化と収益の改善に注力いたしました。さらに、社会の環境に対する意識の高まりに応えるため、「ムーニー カーボンオフセットキャンペーン」を実施するなど、新たな試みを行いました。また、『マミーポコ』『マミーポコパンツ』では、パッケージのデザイン性を高め、お手頃価格を実現し、収益性の強化を図りました。9月には約20年ぶりに旗艦ブランドである『ムーニー』を、赤ちゃんの成長に合わせた工夫を凝らし、サイズごとに異なる機能をひと目で分かるよう刷新し、全国発売いたしました。

一方、海外では、成長市場において積極的な販売・マーケティング活動を展開いたしました。中国では売上を大きく伸ばし収益の改善が進みました。インドネシアでは、『Mamy Poko Pants Standar』が当初の計画を上回る収益をあげました。また、中東・北アフリカ地域では、サウジアラビアを中心に売上が順調に拡大いたしました。

この結果、ベビーケア事業の売上高は、前年同期に比べ4,912百万円増加して70,130百万円となりました。

##### 【フェミニンケア事業】

国内では、製品機能を高めた高付加価値製品を投入し、市場の活性化に取り組んでまいりました。生理用ナプキンでは、3月に改良新発売した、夜用タイプの『ソフィ 超熟睡ガード』の販売に注力し、『ソフィ はだおmoi』『センターイン コンパクト』と合わせて高付加価値カテゴリーの強化を図ってまいりました。また、生理用タンポンでは、『チャーム ソフトタンポン スーパープラス』を新発売し、パンティライナーでは『Kiyora』を新発売、『ソフィ ふわごこち』も改良発売することによって、フェミニンケア製品全体での品揃えを拡充して使用者の拡大を図りました。

海外では、アジアに展開する各国において、夜用タイプ・スリムタイプなど高付加価値ナプキンを中心に販売を強化いたしました。また、生産性改善などのコストダウンに積極的に取り組んでまいりました。

しかしながら、国内においては競争の激化による影響が大きく、また、海外においては現地での売上を順調に拡大したものの、昨今の為替変動の影響によって、フェミニンケア事業の売上高は、前年同期に比べ615百万円減少して35,442百万円となりました。

##### 【ヘルスケア事業】

国内では、大人用パンツタイプオムツ『ライフリー』シリーズや『ライフリー あんしん尿とりパッド』を改良し、販売強化に取り組んでまいりました。また、団塊世代の高齢化が進み、ますます拡大すると予測される軽失禁市場において、『チャームナップ 吸水さらフィ ライト』を新発売するなど、健康な高齢者向けの尿モレ対処品の品揃えを拡充し、新たな付加価値を提供いたしました。

病院や介護施設を中心に展開する業務用分野においては、独自の排泄ケアモデルの提案を継続することによって、新規顧客の獲得に注力してまいりました。

海外においては、台湾とタイにおいて『Lifree』ブランドの展開を加速し、独自の排泄ケア提案によ

って着実に売上を拡大いたしました。また、ヨーロッパを中心としたパンツタイプオムツも順調に売上を伸ばしました。

#### 【クリーン&フレッシュ事業】

クリーン&フレッシュ事業では、新たなお掃除習慣を提案するシートクリーナー『ウェーブ』シリーズより、『ウェーブ 立体フロアワイパー』『ウェーブ ハンディワイパー』に限定カラー品を投入し、取替えシートのリニューアルなど商品ラインアップ強化による売上の拡大を図りました。海外では、当社が保有するシートクリーナー『ウェーブ』のシート技術を、ザ・プロクター・アンド・ギャンブル社にライセンス供与しています。この技術を用いた「スイッファーダスターズ(Swiffer Dusters)」は、当社によって北米ならびにヨーロッパ地域において販売され、当社のロイヤリティ収入に寄与いたしました。

#### ②ペットケア

ペットフード部門では、肥満の犬・猫が増え続ける状況の下、低カロリーでありながらも、おいしさをも重視した肥満対応製品、犬用『銀のさら おいしいカロリーコントロール』、猫用『銀のスプーン おいしいカロリーコントロール』を発売等、4大潮流の進展によりニーズが高まりつつある差別化されたカテゴリー製品を中心に強化・販売促進を進めました。

ペットトイレタリー部門では、犬排泄処理用シート『デオシート』において、従来のワイドサイズより一回り大きいサイズとなる『デオシート ワイドプラス』の発売等、増え続けるペットの室内飼育に対応した製品の強化・販売促進を進めました。

この結果、売上高は21,295百万円（前年同期比17.4%増）、営業利益は2,707百万円（前年同期比28.8%増）となりました。

#### ③その他

当期のその他部門の売上高は5,641百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は245百万円（前年同期比40.5%減）となりました。

不織布・吸収体の技術を活かした業務用製品分野においては、スーパーマーケット等を顧客とする食品包材事業を中心に、業務用食品包材である『フレッシュマスター』『フレッシュマスター保鮮紙』のスーパーマーケットへの浸透強化と飲食店ルートへの販売を強化いたしました。

なお、連結経営成績に関する定性的情報の前年同期比は参考として記載しております。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は282,909百万円となり、前期末より7,473百万円増加しました。これは主に、子会社の増加や売上の伸長に伴い、受取手形及び売掛金が1,980百万円、商品及び製品が1,423百万円それぞれ増加し、また、原材料価格の高騰への対応を行った結果、原材料及び貯蔵品が2,441百万円増加したことなどによるものです。

なお、9月にオーストラリア第2位の紙おむつメーカーである APPP Parent Pty Limitedを買収したことなどによって、のれんが前期末より11,174百万円増加しております。

また、当第2四半期連結会計期間末における純資産は188,146百万円となり、前期末より8,975百万円増加しました。これは主に、四半期純利益8,027百万円による増加および、配当金の支払による1,465百万円の減少や、ストックオプションの権利行使によって、自己株式が3,174百万円減少したことなどによるものです。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取巻く事業環境をみますと、世界的に経済環境が急速に悪化する中、国内では物価上昇による消費動向の曇りや、海外での為替変動など依然として不透明な市場環境が続くと予想されます。アジアでは、各国の市場が急速に拡大するにつれて、グローバルブランド間の競争は、一層激しさを増すと予想されます。

このような状況の下、4月からスタートいたしました第7次中期経営計画「グローバル10計画」の基本方針に基づき、各国のお客様のニーズを的確に捉え、市場に合わせた商品ラインを構築し、ブランド価値と新たな市場を創造するマーケティング活動や製品開発および技術力の強化によって、成熟市場の再活性化と成長市場における積極的な事業拡大を推進してまいります。また、グローバルなサプライチェーンの構築により、進出国においてコスト構造の抜本的改革を図り、より一層、収益力を強化したいと考えております。

従いまして、連結業績予想につきましては、1株当たり当期純利益を除き、当初予想（平成20年4月28日公表）を変更しておりません。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②たな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

なお、これによる損益へ与える影響は軽微であります。

③「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（企業会計基準委員会 平成18年5月17日 実務対応報告第18号）を第1四半期連結会計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

なお、これによる損益へ与える影響は軽微であります。

④所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以降開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、これによる損益へ与える影響はありません。

## 5. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

	(単位：百万円)	
	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	78,522	86,850
受取手形及び売掛金	40,268	38,287
有価証券	5,584	6,906
商品及び製品	11,597	10,173
原材料及び貯蔵品	11,256	8,815
仕掛品	295	311
その他	6,800	6,489
貸倒引当金	△81	△83
流動資産合計	154,242	157,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,067	25,298
機械装置及び運搬具	44,514	45,582
その他	16,108	15,582
有形固定資産合計	85,690	86,463
無形固定資産		
のれん	13,716	2,542
その他	2,689	1,202
無形固定資産合計	16,406	3,745
投資その他の資産		
その他	26,721	27,668
貸倒引当金	△152	△192
投資その他の資産合計	26,569	27,476
固定資産合計	128,666	117,684
資産合計	282,909	275,435

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
(負債の部)		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,319	38,481
短期借入金	4,693	3,427
未払法人税等	3,259	6,696
賞与引当金	3,741	3,279
その他	31,689	30,548
流動負債合計	80,703	82,433
固定負債		
長期借入金	1,469	1,451
退職給付引当金	6,259	6,105
その他	6,331	6,274
固定負債合計	14,059	13,831
負債合計	94,763	96,265
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	15,992	15,992
資本剰余金	18,793	18,590
利益剰余金	160,876	154,331
自己株式	△24,954	△28,129
株主資本合計	170,708	160,785
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,656	1,910
繰延ヘッジ損益	44	△45
土地再評価差額金	△324	△324
為替換算調整勘定	△1,128	△75
評価・換算差額等合計	248	1,465
少数株主持分	17,188	16,919
純資産合計	188,146	179,170
負債純資産合計	282,909	275,435

## (2) 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)	
当第2四半期連結累計期間	
(自 平成20年4月1日	
至 平成20年9月30日)	
売上高	170,031
売上原価	101,883
売上総利益	68,147
販売費及び一般管理費	52,884
営業利益	15,263
営業外収益	
受取利息	368
受取配当金	166
有価証券売却益	34
助成金収入	327
その他	226
営業外収益合計	1,123
営業外費用	
支払利息	137
売上割引	895
その他	297
営業外費用合計	1,330
経常利益	15,056
特別利益	
固定資産売却益	7
貸倒引当金戻入額	41
特別利益合計	48
特別損失	
固定資産処分損	222
その他	3
特別損失合計	225
税金等調整前四半期純利益	14,879
法人税、住民税及び事業税	4,412
法人税等調整額	724
法人税等合計	5,136
少数株主利益	1,715
四半期純利益	8,027

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

	パーソナルケア (百万円)	ペットケア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	143,093	21,295	5,641	170,031	—	170,031
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	1	—	1	3	(3)	—
計	143,094	21,295	5,643	170,034	(3)	170,031
営業利益	12,268	2,707	245	15,221	41	15,263

(注) 1 事業区分の方法

各事業区分の方法は、製品・販売市場等の類似性を考慮して、当社の売上集計区分によっております。

2 各事業区分の主要製品

- (1) パーソナルケア ……ベビーケア関連製品、フェミニンケア関連製品、ヘルスケア関連製品等
- (2) ペットケア ……ペットフード製品、ペットトイレタリー製品
- (3) その他 ……食品包材製品、産業資材製品、ファイナンス業務等、その他

- 3 第1四半期連結会計期間より、平成20年度の法人税法改正を契機として、資産の利用状況等を見直した結果、機械装置の耐用年数を変更しております。これにより当第2四半期連結累計期間の営業費用は、「パーソナルケア」が537百万円、「ペットケア」が29百万円、「その他」が9百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	ヨーロッパ・ 中東 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	106,510	39,073	24,447	170,031	—	170,031
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	4,779	1,304	—	6,083	(6,083)	—
計	111,289	40,377	24,447	176,114	(6,083)	170,031
営業利益	9,805	4,845	543	15,194	68	15,263

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国または地域

- (1) アジア……台湾、中国、韓国、タイ等
- (2) ヨーロッパ・中東……オランダ、サウジアラビア

- 3 第1四半期連結会計期間より、平成20年度の法人税法改正を契機として、資産の利用状況等を見直した結果、機械装置の耐用年数を変更しております。これにより当第2四半期連結累計期間の営業費用は、「日本」が576百万円増加し、営業利益が同額減少しております。



## 【海外売上高】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	アジア	ヨーロッパ	中東・北アフリカ・北米	計
I 海外売上高(百万円)	39,074	18,406	8,425	65,906
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	170,031
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	23.0	10.8	5.0	38.8

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国または地域

(1) アジア……………台湾、中国、韓国、タイ等

(2) ヨーロッパ……………オランダ等

(3) 中東・北アフリカ・北米……………サウジアラビア、エジプト、アメリカ等

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)		
	金額 (百万円)	百分比 (%)	
I 売上高		160,322	100.0
II 売上原価		93,680	58.4
売上総利益		66,642	41.6
III 販売費及び一般管理費		51,942	32.4
営業利益		14,700	9.2
IV 営業外収益			
受取利息	338		
受取配当金	220		
その他	371	930	0.6
V 営業外費用			
支払利息	239		
売上割引	771		
その他	92	1,104	0.7
経常利益		14,526	9.1
VI 特別利益			
投資有価証券売却益	26		
固定資産売却益	50		
貸倒引当金戻入益	5		
役員賞与引当金戻入益	174	257	0.1
VII 特別損失			
固定資産処分損	234		
連結子会社持分変動損	25		
その他	25	284	0.2
税金等調整前中間純利益		14,498	9.0
法人税、住民税及び事業税	5,942		
法人税等調整額	334	6,277	3.9
少数株主利益		1,166	0.7
中間純利益		7,054	4.4

## 【事業の種類別セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

	パーソナル ケア (百万円)	ペットケア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	136,850	18,135	5,336	160,322	—	160,322
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1	—	2	3	(3)	—
計	136,851	18,135	5,339	160,326	(3)	160,322
営業費用	124,722	16,034	4,926	145,682	(60)	145,622
営業利益	12,129	2,101	412	14,643	57	14,700

## 【所在地別セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	ヨーロッパ ・中東 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	103,264	34,507	22,550	160,322	—	160,322
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,955	1,387	—	7,343	(7,343)	—
計	109,220	35,894	22,550	167,665	(7,343)	160,322
営業費用	98,195	32,724	22,038	152,958	(7,336)	145,622
営業利益	11,025	3,169	512	14,707	(6)	14,700

## 【海外売上高】

前中間連結会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

	アジア	ヨーロッパ	中東・北アフリカ・北米	計
I 海外売上高(百万円)	34,525	17,715	6,912	59,153
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	160,322
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	21.6	11.0	4.3	36.9